



ラグビー
スクールに
行こう

30年前、大人たちがつくったひとつのラグビークラブ。そこからラグビーの輪が広がり、ラグビースクールが生まれ、地元の弱かった高校が花園出場を果たすまでになったという愛媛の物語です。

第48回 宇摩ラグビースクール

絵に描いたようなサクセスストーリー

2012-13シーズン、花園での全国高校大会に、愛媛県代表として3回目の出場を果たした愛媛県立三島高校。かつては県予選大会1回戦で敗退するようなチームだったそうですが、近年はすっかり強豪校です。その三島高校ラグビー部に、今年度もほぼ半数の選手を送り込んでいるのが、同じ愛媛県四国中央市で活動する宇摩ラグビースクールです。

この地域では、小規模ながら、ラグビーの世代間のサイクルといえいいのでしょうか、ある意味でヨーロッパの「クラブ」のように、子どもから大人までラグビー環境の縦軸がしっかりと通っている。その始まりが宇摩ラグビースクールであり、成果のひとつの現れが三島高校ラグビー部なのです。

どのようにしてこのような環境が整えられてきたのか、発端からのキーマン、藤田恭二さん（愛媛県協会副会長・宇摩ラグビースクール高学年ヘッドコーチ）が語ってくださいました。

「始まりは、30年ほど前です。まず三島クラブをつくりました。そこからがスタートでした」

国立競技場が満員になり、テレビドラマのスクールウォーズが始まるなどの頃、1981年に三島高校OBを中心に三島クラブが発足。藤田さんは初代のキャプテンでした。しかし、弱かった。ラグビー人口が少ないこの地で、どうしたら強くなるのか。藤田さんらはまず、三島高校が強くなれば三島クラブも強くなると考え、高校との合同練習などを始めます。ところが高校はなかなか強くなりません。やはり高校ラグビー部の部員をもっと増やさないと、ならばラグビースクールをつくらうと、1994年に宇摩ラグビースクールがスタートしました。さらに、ラグビースクールに中学部門があっても、やはり中学校にラグビー部がないと強化が途

切れてしまうので、何年もかけて働きかけ、中学にラグビー部をつくらうということにも成功します。

その結果、どうなったか。

2006年、それまでは9年連続で愛媛代表だった新田高校を3点差でくだし、三島高校がとうとう花園の全国高校大会に初出場



練習場所の伊予三島運動公園多目的グラウンド。野球場がたっぷり4面とれる。また2017年国体の少年ラグビーの会場ともなるスカイフィールド富郷も練習会場。練習場所にも恵まれている



右が藤田恭二さん、左が渡部振一郎さん。藤田さんは市の職員として、現在は国体準備の部署に配属。また渡部さんは三島東中学校教諭で四国中央市合同チーム監督でもある。共にラグビー漬けの日々を送る



低学年には女の子も複数います



当たっていいー！



ステップを切るキャプテンの石川颯人くん。6年生。「ラグビーは、みんなでがんばる団体プレーなので絆が深まるところが好きです」

を果たします。そして2012年の92回大会には、3回目の出場がなかった。これまで同大会の県予選では8年連続で決勝に駒を進めているそうです。

「8回のうち3勝ですから、効率悪いですねえ」と、スクールの中学部門を率いる渡部振一郎さん（四国中央市合同チーム監督兼、宇摩ジュニアスクール監督）は笑いますが、8年連続決勝は、チームの強化の土台が確固としてきていることの証だと思えます。

一方で、そもそもの始まりだった三島クラブも、やはり2006年に四国チャンピオンに。そして2012年にまた四国大会で優勝しています。ラグビーの「幸せなサイクル」がまわっているのです。

好循環が別の好循環を呼ぶ

「三島高校が花園に行くなんていうことは、皆で酒を飲みながら語り合っただけでしたが、夢のまた夢の話だと思っていました。ですから20年以上かかりましたが、結果として現実のものになってびっくりです」

という藤田さんや渡部さんは本当に楽しそうです。

スクール発足当初は運営にも苦労されたそうですが、現在子どもの数は50名ほど。指導者は15人と豊富です。

「スクールも18年続くと、子どもらが帰ってきてくれるんです。高校の後、いったんラグビーから離れても、結婚して子どもができると、その子どもがスクールに入ってくる。で、そのお父さんたちもコーチとしてまたラグビーに関わってくれる。いいサイクルができてきました」（藤田さん）

こちらでは父兄の方も参加できるようにと、タッチラグビーの部門も用意されており、さまざまな年齢の男女が参加できるようにも



5・6年生に中学1年生も混じって。彼らが国体世代だ



その傍らで激励(?)の声援を送る中学生たち

なっています。こういった世代間の循環ともいえる仕組みは、多くのスクール関係者が実現したいことのひとつではないでしょうか。

それには、宇摩ラグビースクールが、それほど勝負にこだわらないという方針も関係しているのかもしれない。

「うちは上に中学・高校と目標が見えているので、小学校で仕上げで完結しようと思っていないんです。中学や高校へつなげたらそれでいい。だからあまり勝負にこだわらないで、力を抜いて指導できています」

こうした余裕というか、「遊び」の部分が、三島高校や三島クラブの強化にうまく作用している気がします。

ここまでお話をうかがって、すべてが順調で困ったことなんてないのでは？ と話を向けると、しばらく考えて藤田さん「困ったこと……ない……ですね。もちろん指導者ももっと力をつけられれば、といったことはありますが、基本的にはないです」ときっぱり。前回の遠征に続いて、またもや前向きなお話が聞けました。

2017年には、愛媛国体が開催され、ラグビーの会場はここ四国中央市。藤田さんや渡部さんらは、国体もとても楽しみにしています。



ゲーム形式の練習。痛いけど楽しい！